

# 2015年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

学校名	愛西市立佐屋小学校	氏名	加藤 未来
-----	-----------	----	-------

## 1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

### (特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

私は、4年間ずっと同じ学年を担当し、発展途上国のことを教えてきた。集大成を見せるべく、そして何か子どもの人生に影響するようなことをしていきたいと考えて、研修に参加した。

研修をする中で、海外で活躍する日本人にたくさん出会うことができた。活動をしているときや現地の方と触れ合っている姿を見ると、とても輝いてみえた。さらに、話をする機会がたくさんあり、その中で目標や願いをもち、やりがいを感じていることに直接ふれることができた。そこで、自分が心を動かされた。諦めかけていた夢の海外ボランティアの参加をもう一度考え直し、参加してみたいと思ったのである。自分がこんなに心を動かされたのなら、子ども達も心を動かされるのではないかと思う。いや、心を動かしたいと思う。自分が心を動かされたことから、子どもの人生の幅を広げる題材を手に入れることができたと確信している。

## 2. 訪問国から学んだこと(気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

### (1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

ガーナの方々は、国を愛している。ガーナのことをよく知り、多くのことを伝えてくれるし、ガーナの発展を願い、考えている。日本はすごいことがたくさんあるにもかかわらず、伝統や良さを知らない。もっとガーナのように、日本を知り、愛していきたい。

ガーナの方々は人がいい。バスに乗っている間も、手を振ってくれるのである。そして、運転手のアニメさんは丁寧に何度も現地語を教えてくれた。また、落とした財布がお金はそのまま、戻ってきた。犯罪がたくさん起きたり、身近に起きたりする訳ではなく、その経験の範囲では日本と治安は変わらないと思える。海外がこわいから行かないというのはもったいない。実際に行ったら、海外に対して肯定的に出会う。そして、人生観や価値観が変わるくらいのが起こり得る可能性があるのだ。

### (2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

野口記念医学研究所の設備や日本人のJICAボランティアの多さに、日本の海外支援はこんなにも行き届いていた。そのことに、研究所の人はとても感謝していた。しかし、私を含め、日本人は知らない。日本人として、そのことを知り、誇りをもちたい。今もなお、野口英世がガーナと日本の大きな架け橋になっている。また、日本のチョコレートの約8割がガーナのカカオを使っていることも知り、ガーナと日本がこんなにも密接につながっていることに気がついた。

学校という場所は、共通していることが多い。特に、子どもや先生は一緒である。子どもの好奇心や行動、笑顔、素直さなどは本当に一緒に、かわいい。そして、先生の子どもへの「よりよい人、未来になってほしい」という願いは変わらなかった。だから、海外の学校であっても、教師海外研修受講者がすぐ打ち解け、輝ける場所なのだと思う。

### (3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

募金をするだけで、本当の支援になるのだろうか、自分は疑問をもつようになった。現地の方やボランティアの方に聞き、自分の目で見ること、本当に必要な支援は何であるかを知ることができた。本当に必要な支援とは、自分自身で継続的に発展していくことができるようにサポートをすることである。だから、資源が豊富なガーナには、それをいかす技術や制度を、見通しをつけながら確立していくことができるように教えていけばいいのではないかと思う。ただ、日本が与えているだけではないことを忘れてはいけない。野口記念医学研究者の技術を学んでいた、カカオなどの資源を輸入したりして、助け合い、高め合っている意識でいたい。

また、日本の良いところとガーナの良いところを比較したときに、日本の昔の現状がガーナの今の現状なのではないか考えた。ガーナの良いところはそのままにして、日本の良いところをガーナがこれから盗んでいけたらいいと思う。そして、日本はガーナの良いところを取り戻していきたい。

### 3. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

とにかく開発指導者研修(実践編)と教師海外研修が良い。教師海外研修の前と後に、開発指導者研修(実践編)がある。開発指導者研修(実践編)の良さは、海外研修をする前はどのような視点をもって、現地で学べばいいのかを考えたり教えてもらったりするため、実際に現地で学ぶことや考えることが多い。そして、学びの共有が多く、自分だけの考えにとらわれず、視野が広がる。海外研修後は、題材をどのようにして、子ども達に伝えるのかを教えてもらうので、存分にいかすことができるのである。

教師海外研修の良さは、内容が多岐にわたる。学校はもちろん、農業や医療、産業など普段見て、聞くことができないことまで、学ぶことができる。そして、色々な方々に、インタビューをしたり活動を見たりして触れ合うだけではなく、懇親会やバスの移動時など、気軽に話すことができる場が設定しており、貴重な話がいっつも、どこでも学ぶことができるのである。どちらも参加したことで、自分の成長に繋がった。

今回行って、ガーナの教師の授業の苦勞を感じた。だから、教材や教科書がない中で、どのように授業をしたらいいのを共に考えたり、私達が授業をしたり教えたりするのもいいと思う。私達が色々なものを得た分、少しでも還せる時間があればうれしい。

### 4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

※別掲

### 5. 印象に残る写真2点とその解説

●写真1… [AOS\_4113]

◇キャプション： 青年海外協力隊の輝き…パイナップル農園で、支援をする坂田さん

◇解説文： 青年海外協力隊の人は、異国の地で、こんなにも輝いて活躍していることを多くの人に知ってもらいたい。



●写真2… [KEN\_0302]

◇キャプション：国境なき仲…コミュニティ開発活動  
の見学で親しくなった子

◇解説文：英語が得意ではないし、年齢も国も違うけれど、繋がることができると実感した。



## 6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

- ・飛行機の中は、寒いときがあるので、長袖を持っていくといい。
- ・長袖・長ズボンでも暑くはないし、蚊対策をしっかりとすれば、半袖でも大丈夫。
- ・マラリアの原因となるメスの蚊の活動時間は、夜である。アクラは蚊が少ない。
- ・20万円をドルに替えたが、ドルは余った。
- ・ピザや中華料理など、ガーナ料理ではない食べ物を食べに行く。
- ・お土産の予備は、必ず準備し、バスの中に入れておくとうい。
- ・バス移動が多く、町を歩く時間や自由時間は少ないので、そういう時間を大切にしたい。
- ・バス移動のときに、青年海外協力隊やJICA ボランティアの方々が行きされるので、その時間に話を聞くといい。（プログラムの時間がのびて、話が聞けなくなるときがあるので）
- ・小学校の交流は、当日学年や時間など変更することが多い。全学年、どの人数でも楽しむことができるものを用意しておきたい。
- ・トイレトペーパーは、レストランやホテル、ガソリンスタンドなど用意されているところが多く、きれいである。ポケットティッシュは、常に持つておくとうい。
- ・すりきずやきりきずなどの、ちょっとしたケガでも、すぐに処置しないと、化膿してしまう。救急セットなどを、自分またはチームで準備しておくとうい。
- ・ケープコースト城のお土産が一番安い。

## 7. その他全般を通じての感想・意見など

私は一昨年から実践フォーラムに参加し、去年にも教師海外研修の面接に受け、念願の教師海外研修であった。まさに、期待通りの教師海外研修で、本当に行きってよかったと思う。

自分の能力では海外で活躍できないだろうと思っていたが、そうではない。この海外研修を通して、こんなにも活躍している日本人がいて、たとえ役に立たない時があっても、次に向け、学び、成長することに繋がればいいのだということも教えてもらった。教師であれば、自分が成長すること、子ども達にその経験を伝えることで、子ども達の成長に必ず繋がる。それが、使命であると感じることができた。子ども達に伝えたいことは何であるかという質問に、多くの方が、こう答えた。もっと挑戦してほしい、外に出て欲しいと。そのことを伝え、子ども達の人生の幅をもっと広げていこうと思う。

海外を知り、人を知り、自分を知る。そんな研修であった。

以上